

# 平成25年度 第2期海域管理計画モニタリング評価シート(案)

〈知床世界自然遺産地域科学委員会 海域ワーキンググループ〉

## 1. 評価項目

海鳥類 (鳥類)

## 2. 評価項目の位置付け

[総合評価]

[横断評価]

[個別評価]

総論	◇知床周辺海域の現状
	◇今後の方向性
	◇モニタリングについて
	◇その他

地球 温暖化を 含む気候 変動	○季節海氷の動態とその影響 ・海氷の接岸時期変動 ・水温の変動 ・季節海氷と海洋生態系
生態系 と 生物 多様性	○生態系 ・海洋生態系と陸上生態系の相互作用 ○生物多様性 ・食物網,生物多様性,平均栄養レベル

海洋環境 と 低次生産	海氷 水温・水質・クロフィラ・プランクトンなど
	生物相
沿岸環境	有害物質
魚介類	サケ類 スケトウダラ
	海棲 哺乳類
鳥類	トド アザラシ類
	海鳥類 海ワシ類
社会経済	資源環境、食料供給、産業経済、 文化振興、地域社会

## 3. 評価項目に関わる調査・モニタリング表

モニタリング項目	主な内容	調査名称等
ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	ウトロ港から相泊港まで区画ごとに繁殖数をカウント。ケイマフリは生息が確認されている範囲の海上で個体数をカウント。営巣数変動も記録	平成25年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥調査業務報告書 (環境省) 平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業「知床半島ウトロ海域の地域協働によるケイマフリ保護の取り組み」 (環境省)

## 4. 保護管理等の考え方

各種調査や情報の収集を行い、鳥獣保護法に基づく適切な保護管理を行う。

## 5. 評価

### (1) 現状

<p>○ケイマフリ ・2013年の最大羽数は7月22日の131羽であった。2002年から2006年までは増減はありながらも最大羽数は130羽近くから140羽を維持していたが、その後2007年から2011年までは各年100羽前後であった。平均個体数は2004年および2006年に80羽台であったが、それ以外の年は60羽前後であった。2013年度は104.6羽と平均羽数では過去最大であった。 ・2013年の知床半島全域での営巣数は39巣であった。最も多かった営巣地はブユ岬の19巣であった。男の涙湾から象の鼻まで4巣、岩尾別川から知床五湖の断崖に至る崖に16巣であった。</p> <p>○ウミネコ 2013年の知床半島でのウミネコの営巣の確認はされなかった。原因については、不明であるがオオセグロカモメ同様に2013年については繁殖期前半の低気温と積雪の可能性もある。しかし、今後知床半島で繁殖する個体群が消滅する可能性もあり詳細な調査が必要である。</p> <p>○オオセグロカモメ 2013年の知床半島での営巣数は337巣であった。昨年の2012年821巣と比較すると484巣減少し、斜里町側255巣・羅臼側229巣減少した。2011年より減少傾向にあったが2013年はこれまでに最も減少が著しかった。原因については、はっきりとは解らないが2013年については繁殖期前半の低気温と積雪の可能性もある。</p> <p>○ウミウ 国内におけるこの種の営巣数は天売島に次ぐ営巣地である。2012年の533巣から2013年は165巣と368巣激減した。斜里町側で342巣、羅臼町側で26巣が減少した。減少については、不明であるがオオセグロカモメ同様に2013年については繁殖期前半の低気温と積雪の可能性もある。</p>
--

## (2) 評価

評価	ケイマフリ個体数は2011年以降引き続き回復傾向にあり、2013年の平均個体数は最大となったが営巣数は横這いである。一方、ウミウとオオセグロカモメの営巣数は激減し、ウミネコの営巣は確認されなかった。繁殖期前半の低温や積雪が影響した可能性があるが、他の要因も否定できない。長年の繁殖状況調査の中で最低の繁殖成績となったが、今後の調査を含めてその要因を明らかにする必要がある。
----	--

## (3) 今後の方針

今後の方針	ケイマフリの繁殖状況と個体数調査は今後も継続し、知床の繁殖個体群の動態を注視して行く必要がある。ウミネコはコロニー消失の原因を考察しながら営巣状況の継続した調査が重要であり、ウミウとオオセグロカモメは、営巣地毎の営巣数の変化を詳細に把握しながら、近年の急激な減少の要因を解明する必要がある。
-------	---

## 6. モニタリングの概要

### (1) ケイマフリ

調査・モニタリング名	2013年ケイマフリの生息海域の分布や繁殖地等の生息状況調査
主な内容	ケイマフリの生態把握
対象地域	斜里町（ウトロ港～エエイシレド岬）
調査期間	2013年6月30日～8月5日
調査主体	環境省

表9-1 記録数の変化

年	2002	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
最大個体数	129	148	129	140	107	98	95	96	142	140	131
平均個体数	62	88.67	56.22	92.22	64.3	61.89	62.17	61.72	94.53	99.91	104.6
標準偏差	38.19	29	27.22	31.29	22.4	24.18	24.94	23.05	36.98	22.98	25.9
最小個体数	10	46	17	40	23	25	17	21	25	67	64
調査回数	14	12	18	9	20	18	12	18	15	11	8

表出典：環境省「平成25年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥調査業務報告書」

2013年の最大羽数は7月22日の131羽であった。2002年から2006年までは増減はありながらも最大羽数は130羽近くから140羽を維持していたが、その後2007年から2011年までは各年100羽前後であった。平均個体数は2004年および2006年に80羽台であったが、それ以外の年は60羽前後であった。2013年度は104.6羽と平均羽数では過去最大であった。

調査・モニタリング名	ケイマフリ営巣分布調査
主な内容	ケイマフリの繁殖状況を把握するために、営巣地域及び営巣数について調査
対象地域	斜里町（プユニ岬～エエイシレド岬）
調査期間	2013年6月30日～7月下旬
調査主体	環境省

表9-2 ケイマフリの営巣数の経年変化

地域名 / 年	2002	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
プユニ岬～男の涙	10	11	7	25	24	6	25	9	23	21	19
男の涙～象の鼻	10	3		4	1	1	1	3	6	4	4
象の鼻～岩尾別	1	4	5	8	2		1	1	0	1	0
岩尾別台地Ⅰ		12	2	4	7	8	4	6	5	8	10
岩尾別台地Ⅱ		1		2	2	4	3	2	9	11	6
トークシモイ	3	7		3	1		1	0	1	1	0
Total	24	38	14	46	37	19	35	21	44	46	39

表出典：同上

2013年の知床半島全域での営巣数は39巣であった。最も多かった営巣地はプユニ岬の19巣であった。男の涙湾から象の鼻まで4巣、岩尾別川から知床五湖の断崖に至る崖に16巣であった。

(2) ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウ

調査・モニタリング名	平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業「知床半島ウトロ海域の地域協働によるケイマフリ保護の取り組み」
主な内容	海鳥を保護していくために必要な基礎データを収集
対象地域	斜里町ウトロ港周辺～羅臼町相泊港
調査主体	環境省



図9-1 海鳥繁殖分布調査範囲と区域割

図出典：環境省「平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業『知床半島ウトロ海域の地域協働によるケイマフリ保護の取り組み』」

○ウミネコ

表9-3 ウミネコの営巣数の経年変化

区域/年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	
A	94	280	346	612	772	159	226	122	134	0	0	6	166	56	0	0	0	調査
B	18	114	54	26	4	0	0	0	27	147	3	214	199	282	256	119	0	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	112	394	400	638	776	159	226	122	161	147	3	220	365	338	256	119	0	
I	-	-	-	-	-	-	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	調査
J	-	-	-	-	-	-	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	
K	-	-	-	-	-	-	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	-	-	-	-	-	-	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	
知床半島全体																		
Total	-	-	-	-	-	-	226	122	-	147	3	220	365	338	256	119	0	

表出典：同上

0は営巣数がなし -は未調査

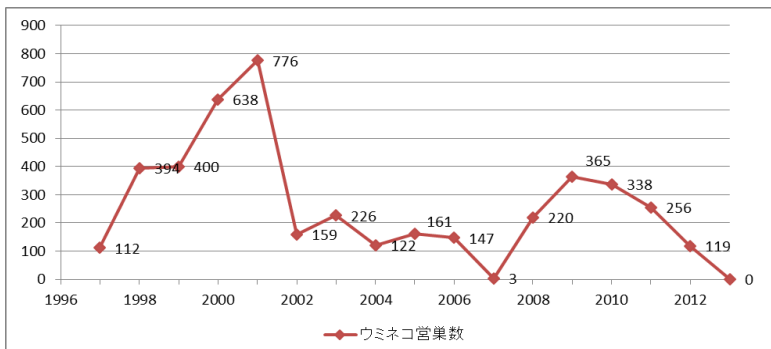


図9-2 ウミネコの営巣数の経年変化

図出典：同上

2013年の知床半島でのウミネコの営巣の確認はされなかった。原因については、不明であるがオオセグロカモメ同様に2013年については繁殖期前半の低気温と積雪の可能性もある。しかし、今後知床半島で繁殖する個体群が消滅する可能性もあり詳細な調査が必要である。

○オオセグロカモメ

表9-4 オオセグロカモメの営巣数の経年変化

区域/年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
A	599	637	785	569	806	642	806	784	760	1046	745	547	604	560	527	412	196
B	139	238	223	354	421	31	109	95	100	91	63	15	50	46	0	18	0
C	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	17	0	0	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	10	0	0	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	12	-	0	0	0	0	0	0	0	0
F	73	271	355	191	21	20	63	16	-	81	17	38	38	58	30	16	39
G	29	68	62	36	0	0	28	20	-	34	10	4	9	4	10	4	7
H	80	257	284	297	69	119	165	153	-	163	154	188	115	128	180	96	49
計	920	1471	1709	1447	1317	812	1171	1080	860	1415	1016	792	816	796	747	546	291
I	-	-	-	-	-	-	105	148	-	88	102	69	91	73	78	45	2
J	-	-	-	-	-	-	189	303	-	231	238	239	220	219	194	164	11
K	-	-	-	-	-	-	23	77	-	63	102	54	71	127	134	66	33
計							317	528		382	442	341	382	419	406	275	46
知床半島全体																	
計	-	-	-	-	-	-	1488	1608	-	1797	1458	1154	1198	1215	1153	821	337

0は営巣数がなし -は未調査

表出典：環境省「平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業『知床半島ウトロ海域の地域協働によるケイマフリ保護の取り組み』」

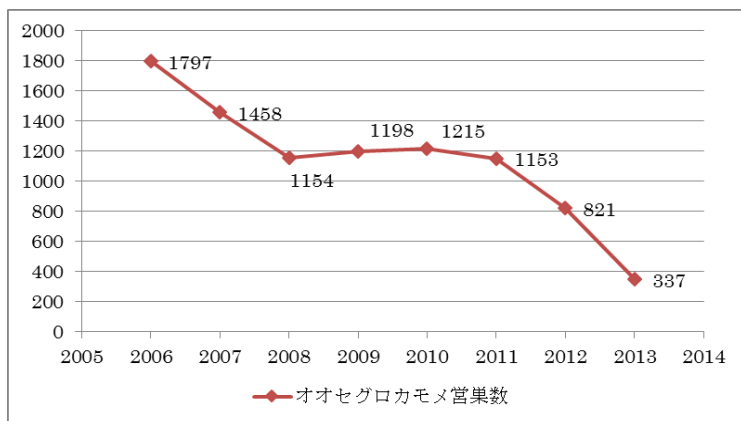


図9-3 オオセグロカモメの営巣数の経年変化  
図出典：同上

2013年の知床半島での営巣数は337巣であった。昨年の2012年821巣と比較すると484巣減少し、斜里町側255巣・羅臼側229巣減少した。2011年より減少傾向にあったが2013年はこれまでで最も減少が著しかった。原因については、はっきりとは解らないが2013年については繁殖期前半の低気温と積雪の可能性もある。

○ウミウ

表9-5 ウミウの営巣数の経年変化

区域/年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
A	270	194	200	214	157	63	231	97	218	304	214	338	559	302	259	298	92
B	140	159	162	209	0	114	229	137	200	206	127	113	137	157	76	75	19
C	0	0	0	0	0	80	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0
F	44	66	49	67	96	0	14	15	-	14	7	21	14	19	0	36	0
G	2	20	1	23	46	0	0	63	-	33	0	9	21	0	0	9	0
H	106	163	106	107	79	48	64	64	-	144	51	62	24	91	51	79	44
Total	562	602	518	620	378	305	538	376	418	701	399	543	755	569	386	497	155
斜里側																	
I	-	-	-	-	-	-	-	54	-	0	0	18	0	0	0	0	0
J	-	-	-	-	-	-	42	37	-	36	41	62	44	54	46	0	0
K	-	-	-	-	-	-	0	0	-	10	5	5	7	19	7	36	10
Total	-	-	-	-	-	-	42	91	-	46	46	85	51	73	53	36	10
羅臼側																	
知床半島全体																	
Total	-	-	-	-	-	-	580	467	-	747	445	628	806	642	439	533	165

0は営巣数がなし -は未調査

表出典：環境省「平成25年度地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業『知床半島ウトロ海域の地域協働によるケイマフリ保護の取り組み』」

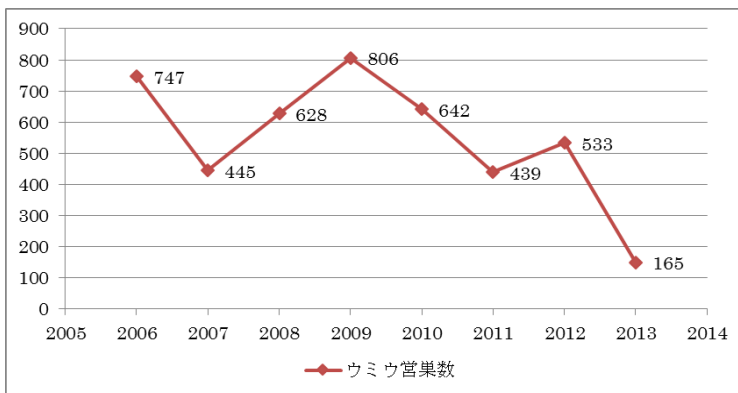


図9-4 ウミウの営巣数の経年変化  
図出典：同上

国内におけるこの種の営巣数は天売島に次ぐ営巣地である。2012年の533巣から2013年は165巣と368巣に激減した。斜里町側で342巣、羅臼町側で26巣が減少した。減少については、不明であるがオオセグロカモメ同様に2013年については繁殖期前半の低気温と積雪の可能性もある。